

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	ふれあい活動による里地里山生物への理解促進
手法名	クイズラリーによる活動プログラム実施
主体	ぐんま昆虫の森
背景(地域の課題)	<p>自然観察の動機づけや展示をよりよく見てもらうための工夫として、クイズ形式のプログラムの運用が考えられる。 クイズラリーの導入は、室内と野外のプログラムの充実化、リピーターの増加など、多様な効果を見込むことができる手法となっている。</p>
手法／方策の詳細	<p>ぐんま昆虫の森では、室内だけではなく、野外に45ヘクタールの広大なフィールドがあり、自ら昆虫を探して観察する体験型施設である(図1)。こうした特性を活かし、自然観察の動機づけを高める手法として平成18年よりクイズラリープログラムを継続的に実施している。</p> <p>(1)出題内容 館内・野外に設置された問題を解きながら園内を回り、最後にスタッフと答え合わせを行う。各ポイントにおける問題分野は次のようなものとなっている。 ①企画展・季節展等の展示と関連した内容 ②設置場所の特性や季節に配慮しながら観察できる生き物に関する問題 ③五感を使った自然体験的な問題 ④館内の図鑑など蔵書で調べて答える問題(図2)</p> <p>(2)景品やスタンプカードと組み合わせプログラム運用 クイズラリー参加者には、オリジナル昆虫カードなど(図3)、子どもたちに人気があり、かつ収集意欲を掻き立てる景品を準備し、「リピーター効果」をねらっている。昆虫カードは現在月ごと新しく発行している。 また、来園ごとにスタンプを押して景品をプレゼントするスタンプカードを開始し、クイズラリーでの景品と組み合わせて運用することで、自然観察の動機づけを高めるとともにリピーターを呼び込む効果を高めている。</p>
手法・技術的視点	<p>(1)自然観察の動機づけを高めるプログラム運用 展示物の物見遊山的な観察ではなく、参加者の動機づけを高め、参加意欲を掻き立てる手法として着目される。 特にクイズの出題分野に保全や観察のポイントなどがバランスよく埋め込まれており、参加者のよりよい理解へと誘導する手法として効果があると考えられる。</p> <p>(2)リピーター等運営面での効果 景品やスタンプカードなどを準備することによって、参加者に生き物理解を促すとともにリピーターを呼び込む相乗効果も両立させた施設運営者ならではの工夫点は、他のふれあい活動における観察プログラムを構築する際にも参考になると考えられる。</p>

<p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p>	<h3>施設機能に合わせたクイズ構成構成</h3> <h3>クイズラリーによる観察と学習プログラムの流れ</h3>
<p>図・写真資料</p>	<p>図1</p> <p>図2</p> <p>図3</p>
<p>参考資料</p>	<p>ぐんま昆虫の森ウェブサイト  <a href="http://www.giw.pref.gunma.jp/www/toppage/000000000000/APM03000.html">http://www.giw.pref.gunma.jp/www/toppage/000000000000/APM03000.html</a></p>